

庶路学園 防災宿泊学習

災害に備え、 防災知識を深める

10月30日・31日の両日、庶路学園（福原克洋校長）で初めての防災宿泊学習が行われ、7年生18人が避難所運営ゲーム「HUG（ハグ）」や避難訓練などを行い、防災に対する知識を深めました。

同校は町の指定避難所となっており、非常食や毛布などを備蓄しているほか、避難時には避難者の受け入れを行うことから、災害時には生徒も地域の一員となり、積極的に行動できる防災力が必要です。

防災宿泊学習は生徒のほか、教

職員、保護者、地域町内会員、学校運営協議会員、釧路西消防署白糠支署、町内郵便局長、役場地域防災課職員が参加・協力しました。

30日は開始集会後、防災士の資格を持つ白糠郵便局の蔵本博幸局長を講師に、避難所運営ゲーム「HUG（ハグ）」を行いました。

HUGは、避難者の年齢や性別それぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所である学校の体育館や教室に見立てた平面図に、どれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こるさまざまなできごとと、どう対応していくかをゲーム感覚で模擬体験するものです。

蔵本局長は「避難所を運営するときに何が大事か、どんなことが起こるのかを想像してください。実際に災害があったときに、皆さんが率先して避難所を開設することでできれば、それだけ助かる命が増えます」と話していました。

参加者は避難者の事情を考慮し、話し合いながら避難所の運営を学びました。

避難訓練は、道東沖を震源とするマグニチュード8の地震が発生したとの想定で行われ、生徒は地域住民と連携し、避難所受付での手指消毒や検温、段ボールパーティションの設置といったコロナ感



1/開始集会の様子。防災宿泊学習では調整班、管理班、救護班、食料班の4班に分かれて行動。2/開始集会であいさつする学校運営協議会の松田晋一会長。「何かに備えて準備をしておくことは日常生活においても役立つことがある」と話していました。7/白糠郵便局の蔵本博幸局長。8/避難所運営ゲーム「HUG」の様子。

3/調整班長の中山紗也さん 4/管理班長の及川禪太さん 5/救護班長の小田桐舞佳さん 6/食料班長の山本大翔さん

10月30日（金）

- 13:15 開始集会（防災宿泊学習の集い）
- 13:30 HUG（避難所運営ゲーム）
- 15:45 避難訓練（避難所開設を宣言）
- 15:50 本部、受付設置
 - ・調整班～1階アリーナで受付、その後、町内会単位でアリーナへ誘導
 - ・管理班～備蓄庫からアリーナ、調理室へ物資搬入
 - ・救護班～受付時のコロナ対策（検温・体調確認）、要配慮者への介助
 - ・食料班～アルファ米、レトルトカレーの調理

- 16:30 ・調整班、管理班～段ボールパーティション、段ボールベッドを作成
- ・救護班、食料班～調理継続、ごみの処理
- 17:30 コロナ対策を徹底し、夕食
- 18:00 役場地域防災課による講話
- 18:30 生徒を含む学校関係者以外は解散
- 18:30 夜間校舎巡回
- 班会議、個人による反省会および感想発表
- 22:30 就寝準備、消灯

10月31日（土）

- 6:00 起床、朝食
- 段ボールパーティション、段ボールベッド等の撤去
- 9:00 釧路西消防署白糠支署による救急講習
- 10:30 後片付け、
- 11:30 解散の集い、下校